

■令和8年2月2日 定例記者会見内容

- 1 日時 令和8年2月2日（月）11:00～11:25
- 2 場所 市役所本庁舎3階 第三委員会室
- 3 出席者 ○市長、副市長、総務部長、企画部長、市民部長、危機管理監、
選挙管理委員会事務局長、市長公室長
○酒田記者クラブ／各社
幹事社／読売新聞・YBC

■市長発表事項

1 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用案について（企画調整課）

市長／物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用案について発表させていただきます。昨年11月28日に閣議決定されました総合経済対策に基づき、昨年12月には、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金2兆円が計上された国の令和7年度補正予算が成立しております。

本市に対しましては、約12.5億円が配分される見込みであることから、その活用手段の検討を進めてまいりました。

このたび、酒田市としての活用案を取りまとめましたので、報告をさせていただきます。

1つ目は、物価高騰対応生活応援商品券事業です。酒田市民の皆さんに生活者支援として、1人当たり1万円分の商品券を市民全員に配布することといたします。

今後、ご賛同いただける市内の各店舗を募集します。例えば市内の商店、スーパー、飲食店などから応募いただき、それらの店舗を市民の皆様からご利用いただくことで、物価高騰している市民の生活の一助になると同時に、厳しい状況にあります市内の店舗、さらには事業者の支えになるのではないかと考えております。

現時点では、本年7月以降に商品券を配布し、店舗での利用は8月からの3か月間と想定しており、鋭意準備を進めてまいります。実施内容は、あくまで予定ということですので、検討状況によっては変更もあり得るということで、ご承知おきいただければありがたいと思います。

2つ目が、学校給食費等の食材高騰分に対する支援です。次世代を担う子どもたちとその家族に対する支援の1つとして、来年度も、小中学校、公立・法人立の保育所などにおける給食費、それから副食費の保護者負担を軽減したいと考えております。

特に小学校におきましては、今年の4月から、国及び県による「学校給食費の抜本的な負担軽減措置」が実施される予定になっております。

その国・県による負担軽減措置の額は、児童1人当たり月額5,200円ですが、酒田市では5,200円を超えて、それ以上に食材費が発生する見込みになっております。そこで今申し上げた、実際に酒田市でかかる食材費から、この月額5,200円を引いた超過部分について、この臨時交付金を活用します。つまり、その超過分について酒田市が負担することで、小学校の給食費の保護者負担がなくなり、小学校給食の無償化を酒田市でも実現できると

ということになります。

なお、小学校の給食費につきましては、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の有無に今後関わらず、令和9年度以降も無償化を継続したいと考えております。

成長期の子どもたちにとりまして、栄養バランスのとれた給食は心身の健康を支える生命線であります。しかし、お米を始めとした食材価格の高騰によりまして、保護者に給食費の値上げをお願いせざるを得ない状況になっております。物価高騰の折、これ以上保護者の方に、経済的な負担をお願いするべきではないと判断いたしまして、今回の交付金を活用するとともに、それがなくなったとしても酒田市で何とか負担をして、無償化を継続していきたいという判断に至ったところであります。

以上2つの事業についてご説明いたしました。これらの関連予算につきましては、令和8年度予算案に計上し、酒田市議会3月定例議会に提示をすることにしております。

■市長発表事項に関する質問

記者／給食費に関することですが、令和8年度はこの交付金で小学校は無償化になり、令和9年度以降も酒田市の負担で何とか無償を続けるということですが、中学校に関してはどのような状況ですか。

市長／中学校につきましては国・県からの負担軽減措置はまだ実施されておられません。そのため、令和8年度につきましては、これまでと同じように、据え置きとしているのですが、超過している分をこの物価高騰交付金で負担して、保護者負担額は前年度と同じということで実施してまいります。

記者／小学校の給食費は、現時点ではいくらぐらいですか。

市長／保護者負担額は260円になっております。据え置きですが、実際の食材費はもっとかかっております。

記者／保護者負担額の月額ですか。

市長／保護者負担額は1食260円ということで据え置きをしております。食材費部分を保護者の方にご負担いただくというのが原則ですが、いくらで購入しているのか、割り返したときに1人いくらになっているのかというのは、同じ年の中でも変わってきておりますが、令和7年4月1日現在ですと、335円かかっています。小学校の場合はその差額を物価高騰交付金で負担をして、260円に据え置いてきたということになります。今は1食当たり335円以上かかっております。その部分を今回の国の軽減措置と、まだはみ出る部分を物価高騰交付金で令和8年度は負担するということです。

記者／ありがとうございます。

記者／商品券のほうですが、他の自治体はかなり早く決めたところもあるので、少し時間かかったのかなというような印象もあるのですが、その上で今回紙の商品券を選んだというところも含めて、どういう検討をされてこの形にしたのか、理由などをもう少しお聞かせください。

市長／今回の交付金は市民の皆様の期待も大きかったもので、市民の皆様、事業者の皆様

最大限還元できる方法は何かという視点で広く交付金の効果が行き渡る活用方法を検討してまいりました。酒田市では、これまでキャッシュレス決済のポイント還元という形で行ってまいりましたが、キャッシュレス決済ができない方に対しても同じように行き渡るものにしなければいけない。その方法にはどのようなものがあるかということを検討してきました。結論としては、なかなかキャッシュレス決済のポイント還元を行う場合に、すべての市民に交付金の効果が行きわたることは難しいので、ほかの自治体で行っているように、今回は紙の商品券で1人いくらと、平等に配るのが適切ではないかという判断に至りまして、今回のような結果になりました。今までキャッシュレス決済のポイント還元で行っていた分、少し検討が長引いてしまったということはそのとおりだと思います。

記者／ありがとうございます。

記者／紙の商品券ということですが、配布の方法はどのように検討されていますか。

市長／まさに検討中でございます。まずは店舗の募集を市内の経済団体と協力をして、どのようにするかを今検討しているところであります。実行委員会を組織して行う予定であります。酒田市だけではできないので、酒田市役所の中でも部署横断のチーム、それに市内の経済団体、具体的には商工会議所と商工会の協力も得られないかということで、今ご相談申し上げているという状況でございます。

記者／実行委員会ということですが、これは新年度早々に発足して行うため、やはり7月ぐらいになってしまうというイメージですか。

市長／発足がいつになるのかは未定です。本当に早くしたいわけですが、店舗の募集からしなければいけない。他の自治体が早いのは、これまでも紙でやっていらして店舗の募集はもうリストがあるという状況で、皆さん素早くされていると思います。ですが酒田の場合は久しぶりなものですから、店舗の募集からしなければいけないということで、時間がほかの自治体よりかかるということは申し訳なく思っております。今回は多少時間がかかりますが、一人一人にきちんと配布をするというのが一番望ましいという私の判断で最終的にそのようにさせていただきました。

記者／この全体の事業費はいくらと捉えたらよろしいのでしょうか。

市長／資料に書いてあると思いますが、全体の事業費、物価高騰の商品券の方が約11.8億円です。

記者／合わせた額は。

市長／合わせた額は、国から来ておりますのが約12億5,000万円でございます。

記者／国から来て12.5億円と県からのものなど事業の財源の内容を教えてください。

市長／国から来ておりますのが、約12億5,000万円です。商品券事業につきましては、県からそれぞれ各自治体に来ておりますけれども、酒田市の場合は9,300万程度。商品券事業につきましては、県から酒田市に9,000万程度ですから、それを合わせた額が財源ということになります。

記者／給食は。

市長／給食のほうは、資料にありますように約1億6,000万円です。

記者／これは国からのものですか。

市長／国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金です。

記者／事業費としては、これを足した分ということによろしいですね。

市長／何の事業費でしょうか。

記者／物価高騰対策全体の事業費はいくらということになるのでしょうか。

市長／県費は約 0.9 億円です。

記者／この県費というのは。

市長／県費が入って 11.8 億円と 1.6 億円を足した額が事業費ということになります。

記者／11.8 億と 1.6 億を足すんですね。そのうち、県費が 9,300 万ということですね。

市長／はい。そうです。申し訳ありませんでした。

記者／この約 12.5 億とあるのですが、千円単位まで教えてもらえませんか。

市長／12 億 5,464 万 8,000 円が、国からくるお金でございます。プラスして商品券の方は県から 9,336 万 2,000 円まいります。

記者／商品券の事業費、約 11 億 8 億とあるのですが、これも千円単位まで教えてもらえませんか。

市長／11 億 8,278 万 3,000 円です。

記者／それから、給食の方の約 1.6 億というのは。これも教えてもらえますか。

市長／1 億 6,522 万 7,000 円です。

記者／分かりました。確認ですが、酒田市の持ち出しはないということですね。

市長／そうです。今回酒田市は持ち出さないと。

記者／分かりました。それから商品券の部分ですが、配布の対象が酒田市民となっているのですが、例えば 2 月 1 日現在とか、3 月 1 日現在とか。基準というのはいつになるのでしょうか。

市長／まだ決定はしておりません。決定はしておりませんが、4 月に転入・転出がございます。転出されてしまうと、酒田のお店では使えないということもありますので、混乱を避けるために、5 月 1 日ではどうかということで今、案として検討しております。

記者／5 月 1 日現在の酒田市の人口と、酒田市民に対してということですか。

市長／はい。それは転出されてしまうと、酒田に来ないと使えないものですから、5 月 1 日が一番良いのではないかとということです。

記者／分かりました。

記者／人口をかければいいだけなのでしょうけれど、商品券の事業費 11 億 8,000 万円のうち、実際に配る金額はどれぐらいということですか。

市長／人口をかければよろしいわけですが、9 億 2,200 万ということです。

記者／ありがとうございます。

■代表質問

1 飛島定期船欠航について

- ① 連続日数過去最長の 22 日となったが、期間中はどのような改善策を検討していたか
- ② 県とはどのような協議をしていたか
- ③ 災害対応にする検討はしていたか

2 真冬の解散総選挙についての所感について

記者／欠航が続いている飛島定期船についてです。先月の 15 日、それまでで連続 22 日となりました。よくあることだという話でもあるのですが、その期間中どのような改善策やいろんな代替策を考えていたか。県との連携が大事なのですが、その期間中どういう知恵を出し合ってたかっていうことと、それから今回の雪では、青森県が災害救助要請を自衛隊に出しました。悪天候で船が出ないというのは、ダイレクトには災害にならないと思うのですが、その辺の検討、要するに自衛隊の災害派遣を使うかどうか、海保も含めて検討していたのかということです。

それから 2 番目が今真ただ中にある衆院選のことです。雪が想定以上に降っているという中、期間も短かったということで、個人的には選管の職員がパンクしそうでかわいそうだなと思っているのです。今日、飛島で期日前投票が順調に行われていますが、回収すべき定期船が欠航になっておりまして、もしかしたらしばらく欠航するかもしれないということで、やはり不安もありますし、県の選管と協議を続けていくと思うのですが、こういった形で進めていくのか伺います。

市長／ご質問ありがとうございます。その前に申し訳ありません。先ほど、実際に配る額とか、いくらかという質問の裏には、事務費がかなりかかっているのではないかというご質問かなと思ったのですが、その辺も十分に検討いたしました。その結果、今回はとにかく、事務費がたとえ多少かかったとしても、皆さんに平等に配るということを優先するという判断を私がしたということです。その事務費も考えてみれば、事業者支援と言い換えることができるかもしれません。市内の事業者さんに委託をするわけですので、事業者支援になるだろうと。キャッシュレス決済のポイント還元を選択しても、いつも夏に行っているので 4 月すぐにはできません。ですのでキャッシュレス決済のポイント還元を行ったとしてもサイクル的に夏になってしまい、同じぐらいの時期になってしまうということを考えたときに、総合的に今回は紙にしようという判断をしたということでございますので、付け加えさせていただきました。

定期船については私も本当に飛島の方を心配しております。今日も船は出なかったのですが、まず 1 月、過去最長の 22 日となったときに、酒田市は一体どんな改善策を検討していたのか、県とどんなふうな話し合いをしてきたのか。国・自衛隊などと協力した災害対応という取り扱いをしなかったのかというご質問の趣旨だと思います。

1 つ目、酒田市の検討状況ですが、まず通常の定期船飛島の運行ですが、午前 9 時半に出て午後 3 時に酒田港に戻ってきます。その 9 時半から 3 時までの間に、運行基準で定めている海上の風速 15m、1 秒間 15m を超える、あるいは波の高さが 3m を超える恐れがある場合は欠航するという扱いになっております。

このたびは、強い冬型の気圧配置の影響で海上の荒天が続きまして、12月24日の水曜日から定期船飛島が欠航しておりました。その後の気象予報でも運航日程、午前9時半から午後3時までの間に、波・風が治まるような日が見込まれなかったために、臨時便の出航を検討し始めました。

1月5日ごろから気象予報を見ながら、機会があればすぐにでも船を出せるように準備を整えておりました。1月15日の早朝に風と波が治まる見込みとなりましたので、前日の1月14日午後に臨時便のアナウンスを行いまして、島民の皆様には食材等の生活物資の搬入を促したところであります。当日1月15日は、予報よりも波の治まりが遅くなりましたので、予定の出航時間は8時でございましたが、朝9時にずらして、臨時便を運行しまして、無事飛島に生活物資を届けることができました。1月15日の4日後の1月19日にも、追加の生活物資を届けることができまして、少し島内の状況を改善したところですが、また1月20日から、今季最大かつ最長の寒気が到来しておまして、今のような状況になっており今日で2週間になります。同じように気象予報を注視して、少しでも出れる可能性があるときにすぐに出られるように、臨時便の出航も含めて検討しているところでございます。

2つ目の県との協議内容ですが、しっかり県とも協議をしております。酒田市だけではできないことが多いので、最初に島民から処方薬が不足しそうであると連絡があった段階で、酒田市で行われた関係課長会議に山形県の職員からも参加をしていただいております。これが1月5日ですね。1月5日に酒田市の関係課長会議に、県の方からも参加をしていただいております。処方薬が不足しているということで、緊急性が高いものでありますので、山形県に対してヘリによる医薬品の運搬の要請を行いました。県にはヘリを飛ばすことにつきまして、窓口として対応もいただきました。また、薬ではなく食料に関しましては、飛島には備蓄品がございます。酒田市の備蓄品もありますし、県の備蓄品もございます。そこで山形県の方にもこの食料の備蓄品を使わせていただきたいということでお願いしたところ、使っていいということで対応もいただいたところであります。当然のことながら県とは常に情報を共有しておまして、出航の見込みの情報、生活物資の保有状況など緊急時に備えた体制を今取っているところであります。最後に災害対応として取り扱う検討をしていたかということですが、食料・燃料が本当に無くなったり、ライフラインが寸断したり、島民の生活維持が困難になって命に関わるような状況になった場合には当然、災害対応として位置付けて、自衛隊などに物資の輸送、あるいは島民の避難をお願いすることも考えられたと思います。

そのため、そういった状況にあるのかということ把握するために、島民の方の健康状況、家庭での食料や燃料の保有状況を把握するために、本年1月9日から10日にかけて、飛島総合センターの職員が全戸を訪問いたしまして、健康状況・食料・燃料の保有状況調査を行いました。その結果、食料・燃料・医薬品いずれも、ほとんどの島民の方は十分に備蓄があり、また不足しているとおっしゃった方も、県・市の今申し上げた備蓄品、この配布で対応できる状況でありましたので、まだ命に関わるような状況ではないということ

で、災害としての取り扱いには至らなかったという状況でございます。

では2つ目の、今回の真冬の総選挙についてということでございますが、本日はご指摘いただきましたように飛島を含めた、市内5か所で期日前投票を行っております。極めて短い準備期間の中で、特に飛島地区においても様々な方々のご尽力によりまして、無事に本日午前中投票を行うことができしております。ご関係の皆様にご心から感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。1月10日に突然解散の報道が出たときは私も本当に驚きましたが、そのときはすでに飛島の定期船の運行が止まっております、運行状況に気を揉む状況でございました。その中での選挙の報道があったということでございました。厳冬期の選挙という点では、首相も解散表明記者会見で「山形県知事選も昨年行われていましたね」とおっしゃっていたということですが、今年の冬は昨年よりも厳しいです。このように欠航状況が続いたということは、初めてのことでしたので、昨年よりも厳しい状況で、酒田市としては大変心配事が多く、本当に選挙ができるんだろうかと心配をしていたところです。1月27日には、お知らせいたしましたように、ヘリコプターによって、本日使用しております投票用紙を飛島にお届けいたしました。そして現在、投票が今日午前中行われております。民間のヘリコプター会社の協力を得て運ぶことができたということで、今日投票が行われて安堵しているところです。

所感ということで申せば、十分に選挙期間が長ければ、事前に定期船で投票用紙を早めに運ぶということもできました。定期船で投票用紙を届けられないということは非常に考えにくく、これまでほとんどそういったことはなかったわけですが、今回は3種類の投票用紙が市の選管に整ったのが1月26日の午後でございました。日程が非常に少ない中で、今回のような状況になってしまったということでございます。今日の正午に飛島の期日前投票が終わりますが、今日船は出なかったため船での運搬は無理なのですが、代替手段も含めて県の選管と市の選管で協議をしていると聞いております。何とか開票日までに船あるいは代替手段など、何らかの手段で無事に開票所に届くことを願っているところでございます。まずは飛島の皆様も含めて全ての酒田の有権者の皆様には、天気が悪く足元が悪い中でございますが、ぜひ関心の高い選挙でございますから、貴重な1票を投じていただきますように、期日前投票も行っておりますので、ぜひ都合の良いときに1票を投じていただければありがたいと思っております。

記者／ありがとうございます。飛島の定期船欠航のことですが、先ほど市長もおっしゃったように、薬を届けた後、9日、10日に全戸訪問をして、生存確認も含めて食料・薬を備蓄が十分であるということなのですが、船が出たのがおよそその1週間後でテレビで、島民らしき方にインタビューしていたのですが、おしなべて、食料もなくなっていく恐怖感があったと答えていました。当初その担当や本庁にいる職員の方たちは、大型冷蔵庫に県の備蓄食料品があるから、島民の人たちは慣れっこだと言っていたのですが、その辺は多分我慢してたと思うのです。その我慢に甘えてはいけないという感じがするので、その辺はいろんな手立てを考えているということ発信した方がいいと思っております。住民の心情的には、もう何十年もそこで住んでいる方でも、島に閉じ込められていると感じるとい

う高齢の方や、ここから出られないのではないかという恐怖感を持っている方もいらっしゃったので、そういうことを見逃さないようにするということだと思います。過去記事を見ると、海保の巡視艇で急患を搬送してきたというものがありました。ということは、その巡視艇規模の船も飛島の船着場に入れるという港湾の機能が十分だということなのですが、確認したところ定期船と同じ運航基準で、その運行基準は元々、海事法か何か分からないですが、ただ海保の巡視艇といえば、日本海の荒波の中、国籍不明の船を追いかけるわけなので、海上 3m ぐらいの波高でつぶれるとは機能的には思えないので、定期船と海保の巡視艇を一緒にするというその根拠は何なのでしょう。いざというときはもう 3m、4m で巡視艇が転覆するわけがないと思うんです。定期船と巡視艇は同じ運行基準なのか根本的に法律で、もうこの期間は駄目なのかというその辺をちょっと確認したいのですが。

市長／最初のところは、本当に食料がなくなって恐怖感があったということなのですが、まだまだ食料がたとえあったとしても、次はいつ出るのか、誰も保証がないというそういう心配感は非常によく分かります。いつ出られるんだろうか、いつまで閉じ込められるんだろう。いつ出ると分かっていたら、それまで我慢しようというわけですがいつ出られるか分からない、その不安感は分かります。1 月の中旬に大変遅ればせながら市長メッセージを出したところです。市役所の職員も傍観していたわけではなく、今説明いたしましたように、真剣に考えみんな心配しているということ、飛島の皆さんに知っていただくということは本当に大事なことだなと思います。私だけでなくみんな心配してると思いますので、しっかり飛島の皆さんに伝わるように、これからも発信していきたいと思えます。

危機管理監／海保の巡視艇の運行基準についてなのですが、こちらは定期船よりもそれなりに航行能力が高いという話は聞いています。その運行基準の部分に関してはそれぞれの組織で決めていることですので、当然大きさなどでも変わってくるわけです。その辺は海上保安庁の船であればそちらの方にお問い合わせいただければと思います。

記者／分かりました。

記者／船のことなのですが、出航できるかできないか、出航できる日が増えるためには、どうしたらいいのかというところで、一番簡単なのは船を大きくすればいいというところがあると思うのですが、それはなかなか難しいと思うのです。船については何年単位で更新するなど今の時点で計画があるのであれば、次の船にはどういった船にするのか教えていただきたいのと、船を大きくする以外で、出航率を高めるための何か施策など何か考えられることがあるのか教えていただきたいです。

市長／船の更新時期も、近づいていると認識しています。正確な年度は、今手持ちがないのですが必要でしたら定期航路事業所に聞いていただければいいのですが、もう更新の時期は分かっておりますので、それに向けて次の船はどういうものかいいのか、おっしゃるように出航率がもう少し高くできる船がいいのか、あるいはもう少し時間が短く速くいけるものかいいのか、揺れが少ないものかいいのか、さまざまな意見がございます。実は住民の島民の方を中心にアンケートなども取りまして、どういう船、どういう基準で次の船を考えたらいいのかということは検討を進めております。当然今回のことがありますので、

島民の方ももしかしたら出航率が高いものにしたいという声が大きくなって来るかもしれません。島民の方の何を優先して、次の船を決めるべきかという作業を進めております。

記者／出航率を上げるためには船が変わる以外難しいですか。

市長／難しいのではないかと思います。やはり安全、乗って事故に遭ってはいけません。特に数年前に北海道の方で事故がございました。大変な荒波の時に出してしまったということがありました。それ以来もちろん国の規制も厳しくなっておりますし、私たちもやはり安心・安全が一番だと。無理して出航して大変なことになったら困る。安全に勝るものはないので基準をしっかりと守り、しかし今回のような場合には、5時間空けばいいので、その時に臨時便を出すなど柔軟に対応していきますが、やはり安全を一番、島民の方も望んでるのではないかなと思っております。

記者／特定有人国境離島関係の要望を昨年もされていたと思うのですが、こういう事態を受けて、指定に関して改めて何かもしあれば教えてください。

市長／今回いつ提出されるか分かりませんが、国の予算案の中では総額の補助金が50億円から55億円に増えておりました。つまり新しく認定される島があるのではないかと、5億円総額が増えてるのだと思いますので、飛島が入るのではないかと大変期待してるところです。それがもし認定されれば、乗船料金も下げることができますし、様々な運搬にかかる費用についても補助が得られるということですので、大変期待しているところです。

記者／代表質問の関連で一昨年の衆院選で投票所入場券が不着というなかなか例を見ないことがあったので、ちょっと気になったのですが、今回は投票入場券の発行配送の改善をしているはずだと思うので、その辺を少し簡単に説明していただきたいと思います。

選管事務局長／前回、令和6年の際の衆議院選挙の折に、投票所入場整理券をお配りできなかったといいますか、お配りしないでしまったものが、数百通があったということでした。その際には大変ご迷惑をおかけしたところでございます。その後ですが、昨年今頃の県知事選、参議院選挙、酒田市議会選挙ということで3回選挙があったのですが、その際の印刷会社で作成した台紙にプリントアウトする印字作業等については、市役所の選管の職員が行ってきておりました。その際には、ダブルチェックとトリプルチェックという形でやっております、最終的には業者の読み取り機械も導入して、そちらの枚数の確認等もして、確実にお届けしてきたというところでございます。

今回につきましては、基幹系のシステムの全国統一システムへの切り換えの時期が、ちょうど1月ということもございまして、実は選管の使ってるシステムも含めて、1月で新しいもの変わっております。全く中身が変わったということではないのですが、そちらの方で使う入場整理券の様式自体が変わっております。こちらは一応国で示された様式の方に合わせるという形で、酒田市の場合は切り換えております。前回までは1枚に6人まで入る形の入場整理券だったのですが、今回から1人1枚のものに変わっております。これは前々から想定して契約していたものですが、今回令和8年の1月以降については、その台紙の印刷からプリントアウトまで全て外部委託するというところで、酒田市選挙管理

委員会としては、できあがったはがきを一旦納入してもらい、それを郵便局へ差し出すという形にしております。枚数の確認などについても終わったということで、こちらの方に納品していただくという対応をしているところでございます。今回も特に問題はなかったことを確認して、差し出しさせていただいたというところでございます。

記者／ありがとうございます。

■フリー質問

1 除雪費と除雪方法について

記者／気候のことでというか、雪です。まず除雪費の現時点の消化率ということと、それから何年ぶりかの大雪ということもあるのですが、前年より増やしたのかどうなのか。補正を組まなくてはいけないのかということが1つ。それから、除雪の計画を事前に作っておられると思うんですが、除雪というのは雪を除けるだけで終わるのではなくて、除けた雪を片付けるまでの除雪という考え方があるのですが、なかなか国も県も市も寄せてるだけで道路が狭いまま、ガタガタのままなので、雪捨て場もないのでしょうか、その辺のやり取りなどは計画的にはどうなってるのか確認させていただきたいと思います。

総務部長／私の方から、分かる範囲でお答えさせていただければと思います。今回の雪はどのような状況かということ、非常に大雪だったのが令和3年でございます。毎朝除雪しないといけない日が続いた年で、4年ぶりぐらいのことになるろうかと思えます。予算的にどうなのかということについては、1月の時点では何とかいけるのかなという見込みもあったのですが、寒波が長引いたということ、これからの予報を見ても、かなり降雪・寒波が想定されるということで、今補正予算をお願いする段取りを考えています。通年議会ですので、臨時会を開催するというところで、日程を調整しているところでございます。市道の除雪の技術的なことは、私も詳細を把握していないので後ほど、土木課のほうで確認いただければと思いますが、基本的に10cmを超えとなると、業者の判断で除雪をする。まずそれが大原則となっております。一旦降り積もった雪が固められてる状態で溶けてくると、ガタガタした状況になる。それを剥がすのは、土木課のほうで指示をしているということになっていきます。なので排雪を含めて、こちらの方で指示をして適正に処理をしているというところでございます。

記者／消化率は当初予算でいくらでしょうか。

総務部長／当初予算で4億3,000万でございます。除雪費というのがなかなか分かりにくいところなのですが、固定費と実際の稼働費がありまして、4億3,500万のうち、2億6,300万というのは、除雪をしてもしなくてもかかる経費。防雪柵を付れたり外したり、除雪車をメンテナンスしたりする経費、凍結防止剤を購入したりというケース。それ以外が稼働費なのですが、1億7,200万というのが、通年ベースで想定している計画でございます。1月末時点で執行が1億3,500万でございます。その時点では3,700万ほどの残額だということですので、今回、臨時会に補正をお願いするいうところでございます。

記者／ありがとうございます。

2 酒田市沖洋上風力発電について

記者／酒田市沖の洋上風力に関してなのですが、法定協議会もしくは酒田部会など、年度末に向けて何か近々開催されるとか、今日程調整してるとか、そういうことがあれば教えていただきたいです。

市長／協議会については、年度内の予定はございません。

地域創生部長／酒田部会につきましては、年度内に1度やりたいということで、調整中でございます。来年度以降、提供に向けて、しっかりと丁寧に整備していきたいと思っております。

記者／ありがとうございました。

3 酒田市まちなかランドデザインについて

記者／中町のまちなかランドデザインは、2月の中旬に公表に変更になったと聞いているのですが。本当は今年の1月と聞いてたのですが、2週間ほど伸びるような話だったのですが、何か背景や理由があったのでしょうか。

市長／私は特段何も聞いてないです。今パブリックコメントを行っています。まちなかランドデザインのパブコメの内容はこれからですが、特段予定どおりだと思っておりました。

記者／公表はされているのでしょうか。

市長／特段何も聞いてませんでしたから、予定どおりということで、私は特に何かあったということは聞いておりません。事務的なことだと思います。

企画部長／まちなかランドデザインの策定につきましては、最終的に3月の策定という予定は変わっておりません。それまでの官民連携の会議の開催日程であるとかパブリックコメントの日程であるとか、そういった事務的なことによって時期的にちょっと少しずれているところなんです。その内容について、何か変更がありその分時間を要しているといったようなことは特段ございません。

記者／公表時期はいつでしょうか。

企画部長／確定版、最終的な公表時期というのは3月末と考えてございます。

記者／そのパブコメの前の段階の案はいつになるのでしょうか。

企画部長／素案についてはすでに公表済みでございますが、どういったものの公表ですか。

記者／1月末に公表するというで聞いていましたが、それは公表されているのでしょうか。

企画部長／ランドデザインの案でございますね。それは少し遅れておるところです。

記者／いつ公表になるのでしょうか。

企画部長／決まり次第改めてお知らせしたいと思いますが、間もなく公表ということでございます。

記者／案の公表が遅れているわけですね。

企画部長／1月末を目標にということでお知らせしておりましたけれども、今日は2月の初めの日ということですので、少し遅れているというところがございます。

記者／2月の中旬と聞いているのですが違うのですか。

企画部長／正確な時期までは今手元に持っていないのですが、もう少し事務的などところで時間を頂戴するというところがございます。

■市長発表事項補足

1 物価高騰の影響に係る対応について

市長／今日は物価高騰のこの商品券を配るということと、給食費を物価高騰交付金がなくなった後も無償化したいということを発表させていただいたわけですが、商品券につきましては、発表が少し他の自治体に比べて遅かった理由は申し述べましたし、また、どうしても夏ぐらいまでかかってしまう理由、主に酒田市の場合は、他の自治体と違って店舗の募集からやらなければいけないというところは説明したのですが、その間、夏までどうするのだということで、本当に物価高騰に苦しんでいらっしゃる市民の方がたくさんいらっしゃると思います。その方たちに対しては、まずは子どもがいらっしゃるご家庭につきましては、給食費の無償化をさせていただきますし、また国の方から、2万円の児童手当のプラスもございました。また、高齢者の方につきましては全員ではないのですが、住民税非課税世帯のうち、高齢者のみの世帯などということで、今回、灯油代等ということで、県の方から直接に助成金が行くようです。また酒田市も単独で12月補正の中で、例年以上の7,500円プラスということで、高齢者の方にもほんの少しですが、生活の足しになるようなものを配布しておりますので、この商品券が配られるまで、何とかそれで生活していただけないかなという思いしております。酒田市だけではなくて、国が燃料代、電気代ガス代の提言もしておりますし、県でも事業者支援をメインにさまざまなことをしていますので、酒田市でだけで行っているわけではないので、トータルで何とか市民の皆さんが生活できるようにしていきたいという思いしております。

■その他

なし